# 渋沢栄一の銅像
## 日本の福祉・医療の原点

健康長寿医療センター（板橋区栄町35-2）の敷地内に立つ渋沢栄一銅像は、養育院本院が板橋に引っ越してきて2年目の1925年に建設されました。長年院長を務めた栄一の功績を讃え、当時の東京市長中村是公らが発起人となり、「渋沢養育院長銅像建設会」を設立、市民など650名余りの寄付を募り、1925年11月15日、本院完成に合わせて建立されました。フロックコートでソファーに腰を掛けた姿の銅像は、彫刻家小倉右一郎制作で、完成当時は、高さ16尺（4.85m）、方20尺（6.06m）の花崗岩の台座に、高さ10尺（3.03m）、重量480貫（1.8トン）の青銅製のものでした。当初は、養育院本院の事務室があった、現在の板橋第一中学校内に建てられていました。戦時中の1941年には、武器製造に必要な金属が不足すると金属類回収令が発令され、台座から下ろされ、代わりにコンクリート製像が台座に置かれました。下ろされた銅像はあまりに大きくなかなか搬出されず、ボイラー室脇に置かれたままでした。1945年4月の空襲で、施設とともにコンクリート像は焼かれましたが、銅像は防火壁に守られ奇跡的に破損を免れます。戦後の混乱の中で、銅像はすぐに台座に戻されず、1957年の像移転の際に作者の監修のもと修復されましたが、周辺施設の建設に伴い移転を繰り返し、2013年6月東京都健康長寿医療センターの開院を機に現在地へ移設されました。

銅像は日本の福祉・医療の原点であり、養育院の歴史と、その運営の中心的役割を果たした渋沢栄一による社会福祉事業への関与の原点を明らかにする一方、板橋区の近代化の歴史を物語る資料として重要なものとして2014年に、板橋区登録有形文化財に登録されました。

桜の中の渋沢栄一像

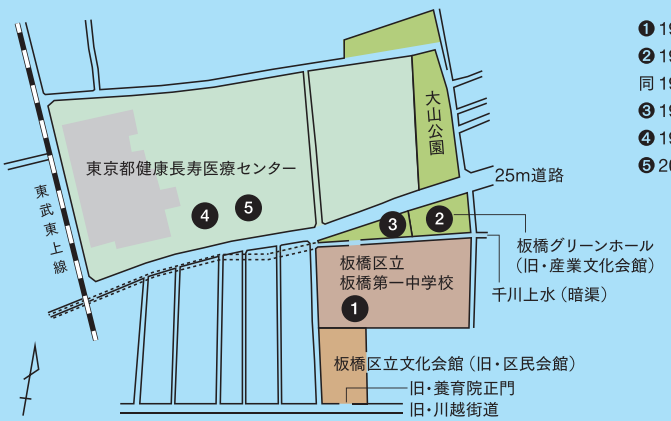
1955年頃、コンクリート製の渋沢栄一像

撮影時期不明・台座から降ろされた渋沢栄一像

東京都健康長寿医療センター所蔵

1971年、板橋産文ホール脇の渋沢栄一像

## 渋沢栄一 銅像の軌跡




❶ 1925.11.2 旧・養育院本院前
❷ 1955.1.17 旧・産業文化会館付近
同 1957.3.30 改修（銅像に戻る）
❸ 1968.3.30 旧・産業文化会館西
❹ 1982.7.31 旧・養育院西門
❺ 2013 現・東京都健康長寿医療センター公園内

『図説 板橋区史』掲載図を『養育院百年史年表稿』を参照して修正・加筆
（出典：板橋版・澁澤榮一地図（2022年））